

1 指定物件の表示及び所有者

指定区分	民俗文化財
種別	無形民俗文化財
指定名称 及び員数	今津十一日まつり
所在地	福岡市西区今津 1736
所有者	今津十一日まつり保存会 代表 中村隆暢

2 概要

今津の十一日祭りは登志宮を氏神とする上町・東町・寺小路の岡三町と四所宮を氏神とする本町が行う年頭の祭りで、現在は1月の成人の日に行われている。

各町内ごとにきらびやかな山車と椎の枝を立てた神輿をつくり、町内を練り歩き、家々を訪れる無礼講の祭りである。

前日に山車・神輿を用意する。祭り当日は、青年たちの担ぐ神輿を浜辺で清めた後、お潮井採りを行う。この後、それぞれ氏神である登志宮・四所宮に参拝した後、町内各戸に災厄除けのお潮井を配りながら、「いおうたーいおうたー」のあいさつとともに無礼講で家々に年始回りをを行う。

また子供たちの曳く山車は「若い年のならわしごとに山車出して社前に 奉載だ 奉載だに出る子 矢檣に矢射かけて 的矢の矢」と山車曳きの歌を囃し立てながら町内を練り歩く。子供たちも「いおうたー」の掛け声とともに各戸を訪ね、お菓子などをもらって廻る。寺小路では年配者たちが仮装し、その歳の干支の「つくりもん」(造物)を曳いて町内を祝って回る。各町4ヵ所の座元や、祝い事があった家では青年が「祝いめでた」を歌う。

山車には現在、舞台風の作りにきらびやかな人形が飾り付けられているが、かつて貿易港であった今津に荷揚げされた貢物が太宰府の役人に検閲された後、山車に載せ今津中を引き回し披露したと地元では伝えられている。戦前は手作りであった山車を飾る人形は、戦後は博多人形師に頼むようになった。

開催日は戦前は2月11日(紀元節)、戦後2月11日(建国記念の日)であったが、その後1月11日となり、さらに平日の開催を避けて祝日となる1月15日(成人の日)とし、平成12年からは1月8日～14日のうちの月曜日(成人の日)となっている。

3. 指定理由

今津にある四町の正月の行事である。四所神社を氏神とする本町(ほんまち)と、登志神社を氏神とする岡町(おかちょう)内=上町(かみちょう)・東町(あずままち)・寺小路(てらしょうじ)のあわせて四地区で繰り広げられる。四所神社について『筑前国続風土記』は「異国船の来りつとひし所なれば、鎮守の爲に勧請せしにや」と伝えている。

祭りの前日、4つの地区のそれぞれの宿で、山車や御輿の準備を行う。本町の宿は公民館、上町・東町・寺小路は地区毎に座元の家を宿にしている。祭りを取り仕切る座元は、1年交代の回り持ちでつとめる。山車と御輿は4つの地区毎に1台ずつ準備する。山車に載せる人形は4地区とも一人の博多人形師が作る。以前は各宿で作っていたが、深夜までかかることから近年は宿で作るのは本町の1つとし、他の3つは人形師の工房であらかじめ作ったものを宿で組み立てるようになった。

山車の飾り付けには、この日に山から切り出してきた青竹と杉の枝で山車の四面に取り付ける杉壁を作る。長老たちは山車と御輿、汐井を入れる「汐井たご」にかける注連縄を綯う。山車には短冊を飾った大きな笹竹を立てる。同じく短冊を飾った大きな笹竹を座元の家にも立てる。

御輿は椎の枝を立てて神籬(ひもろぎ)とし、鏡や御幣、短冊を飾る。

十一日まつりの朝、各町内で祭りを告げる幟を立てる。家々では「たんざく」と呼ぶ七夕さながらの笹を立て山車や御輿の訪問を待つ印しにする。不幸事のあった家では「たんざく」を出さず訪問を遠慮する。

御輿担ぎの青年たちは地区毎に見越しを担いで汐井浜(大原海岸)に「汐井採り」に向かう。上町は御輿を海水につけてからオシオイを採る。オシオイをとった一行は本町は四所神社で、岡町内3地区は登志神社で御輿の祓いを受けて宿に戻る。座元の家で御神酒を頂き、庭先で「祝いめでた」を唱和する。それから家廻りに出発。最初に次の年の座元の家を訪問、御神酒を頂き接待を受け、それから軒並みに家々を訪問する。この際、御輿の一行は災厄除けの浄めのオシオイを家々に配る。汐井持ちは厄年の者がつとめる。「いおうた一」と言いながら玄関先に入りオシオイを置く。

一方、4台の山車は列を組んで、山車曳き歌をうたう子どもたちに曳かれ4町内を練り歩く。所定の辻で山車を止めると子どもたちは一斉に散らばり、各家に「いおうた一」の掛け声とともに飛び込み接待を受ける。山車を曳くのは昔は男子に限られていたが、現在は女子も一緒に曳いている。

寺小路では長老たちが仮装し、その歳の干支の「つくりもん」(造物)を曳いて町内を祝って回る。

博多松囃子にも似、博多祇園山笠にも似た「今津十一日まつり」の起源は不明であるが、唐泊(西区)では正月13日に「どんたく」があり、宮浦(西区)では同じ頃恵比須祭りがある。いずれも松囃子の遺風が伝わるものとも言われる(筑紫豊『日本の民俗 福岡』)。「今津十一日まつり」も望の一五日を中心とする(満月をもって第一日とする)小正月の行事として、地域をあげて一年の始まりを祝っている。

